落下の軌跡

野火俊弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
落下の軌跡

【Ｎコード】
Ｎ７３６８Ｋ

【作者名】
野火俊弥

【あらすじ】
たゆたう夕日の中で墜ち続けるのは老いた私

ボンヤリと憂鬱な黒々とした眼の裏側に位置する暗い貪欲な中枢は
白痴とは名ばかりの歴きとした狂喜の潜む処でありその更に奥の方
私の与り知らぬ獰猛な獣を飼い馴らして居るのかと内心、この男の
目の裏側に恐怖を感じる事がしばしば有り、何を考えているのかと
問うても、ボンヤリとした黒が揺らぐ事は稀で、本当に何も考えて
居ないような緩やかなそれでいて確実な動きで私を覗くその双眸の
暗い暗い奥に映り込む歪んだ私の像は酷く醜悪で情けの無いただの
凡庸な人間だった、又はこの男の想像する所の力無き存在であろう
過去の亡霊だった私は老いたがしかしこの男の首を縊り捻る事など
造作も無い日常的な事なのだがだったのだが、それをいま、今直ぐ
実行、しないのは私が老いたからだ、この男を殺す事に僅かながら
躊躇が生まれているそれはこの男の人間臭さと謂うのが私に対して
矛盾だらけの脳内組織が発する微弱な電気信号が形成する心象風景
を羅列する確かな鏡である緩やかな螺旋、何処の何も映しはせず、
ただボンヤリぼんやりと中空を彷徨う風花、直ぐに消えてしまう
揺れない届かない地に落ちない漂うだけ何を
そんな男の、緩やかな落下の過程の中
赤の焼けた日の中で私は生きる

「きっとそれはどこか遠い次元の想像もつかないようなこと」

君はきっと笑うだろう

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7368k/

落下の軌跡

2010年10月20日18時22分発行